

One ニッポン債券オープン

追加型投信／内外／債券

受益者の皆さまへ

毎々格別のお引立てに預かり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、日系企業が発行する円建ておよび外貨建ての各種債券を中心に投資し、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。

当作成対象期間につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに、運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

作成対象期間 2022年6月18日～2022年12月19日

第13期	決算日：2022年12月19日	
第13期末 (2022年12月19日)	基準価額	10,062円
	純資産総額	4,919百万円
第13期	騰落率	△1.9%
	分配金合計	80円

(注1) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率を表示しています。
(注2) △(白三角)はマイナスを意味しています(以下同じ)。

当ファンドは投資信託約款において、運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記のホームページにアクセスし、「基準価額一覧」等から当ファンドの名称を選択いただき、ファンドの詳細ページから閲覧、ダウンロードすることができます。また、運用報告書(全体版)は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

■運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター **0120-104-694**

(受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで)

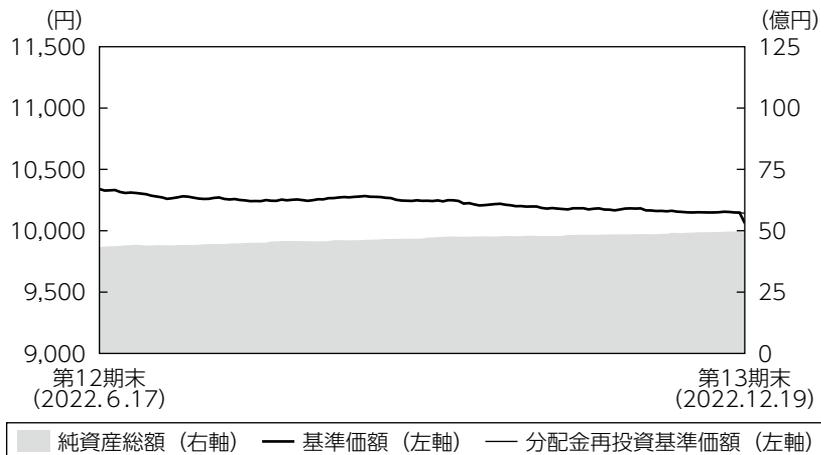
お客さまのお取引内容につきましては、購入された販売会社にお問い合わせください。

アセットマネジメントOne 株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-2 <http://www.am-one.co.jp/>

運用経過の説明

基準価額等の推移



第13期首： 10,340円
 第13期末： 10,062円
 (既払分配金80円)
 騰落率： △1.9%
 (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。
- (注4) 当ファンドはベンチマークを定めておりません。

基準価額の主な変動要因

高いインフレ率を背景に、欧米の中央銀行が金融政策の正常化姿勢を強める中、国内外の国債利回りが上昇（価格は下落）したことに加え、円建ての保有銘柄のクレジットスプレッド（国債との利回り格差）が拡大したことなどを主因に基準価額は下落しました。

1 万口当たりの費用明細

項目	第13期		項目の概要
	(2022年6月18日 ～2022年12月19日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	36円	0.351%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は10,226円です。 投信会社分は、信託財産の運用、運用報告書等各种書類の作成、基準価額の算出等の対価 販売会社分は、購入後の情報提供、交付運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 受託会社分は、運用財産の保管・管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価
(投信会社)	(17)	(0.167)	
(販売会社)	(17)	(0.167)	
(受託会社)	(2)	(0.017)	
(b) 売買委託手数料	0	0.001	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、組入有価証券等の売買の際に発生する手数料
(先物・オプション)	(0)	(0.001)	
(c) その他費用	1	0.010	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、外国での資産の保管等に要する費用 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用 その他は、信託事務の処理に要する諸費用等
(保管費用)	(1)	(0.009)	
(監査費用)	(0)	(0.001)	
(その他)	(0)	(0.000)	
合計	37	0.362	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

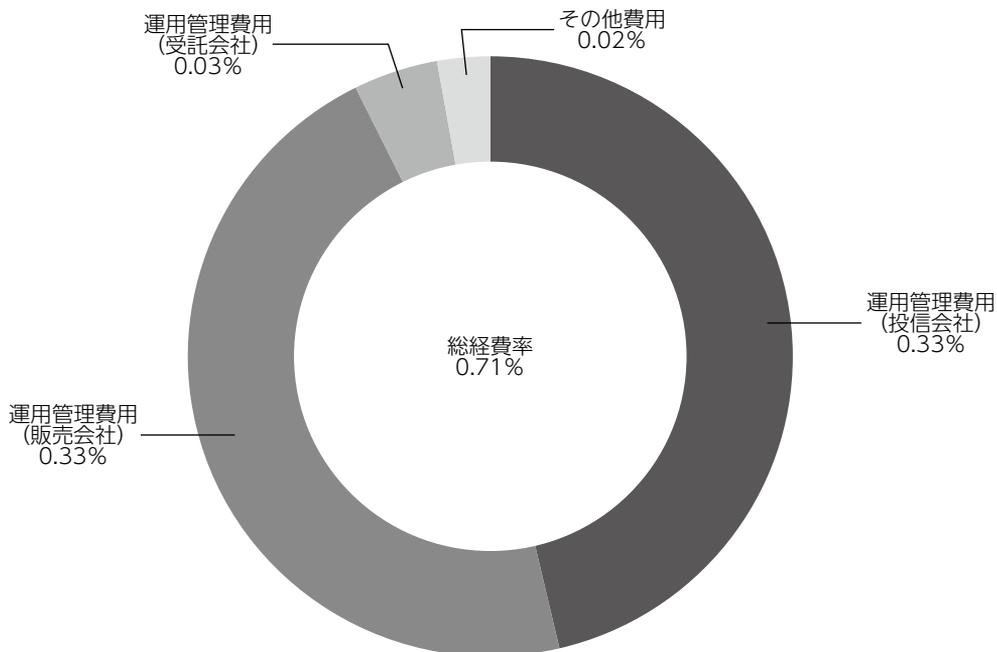
(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

◆総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.71%です。



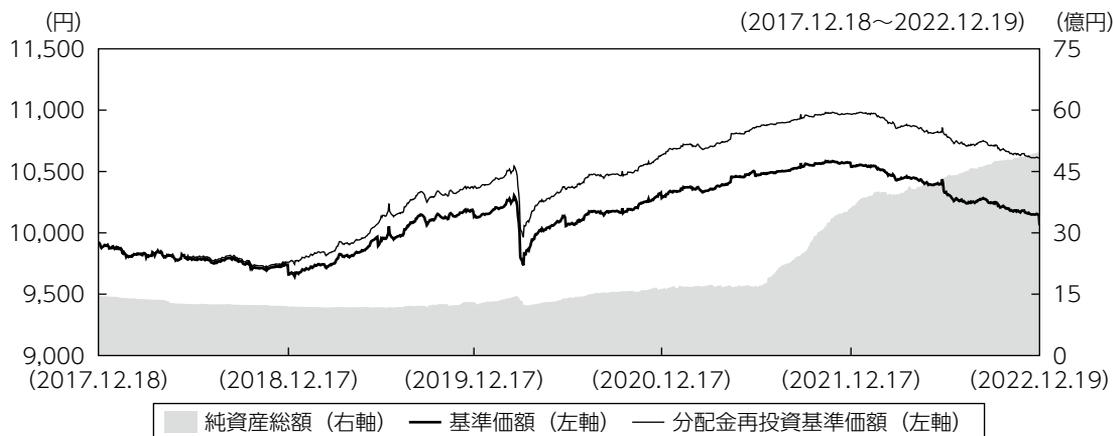
(注1) 1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

最近5年間の基準価額等の推移



(注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、2017年12月18日の基準価額に合わせて指数化しています。

	2017年12月18日 期首	2018年12月17日 決算日	2019年12月17日 決算日	2020年12月17日 決算日	2021年12月17日 決算日	2022年12月19日 決算日
基準価額 (分配落) (円)	9,920	9,661	10,134	10,286	10,540	10,062
期間分配金合計 (税引前) (円)	—	100	130	100	70	130
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	△1.6	6.3	2.5	3.2	△3.3
純資産総額 (百万円)	1,462	1,195	1,297	1,627	3,615	4,919

(注) 当ファンドのコンセプトに適した指数が存在しないため、ベンチマークは定めておりません。

投資環境

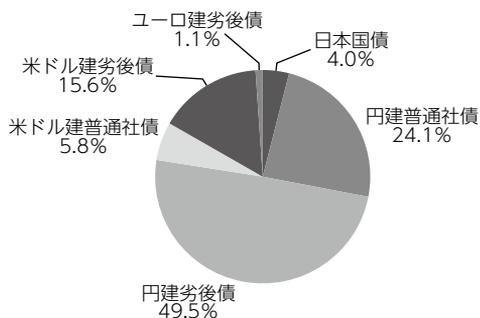
利上げペースの鈍化期待から2022年8月上旬にかけて金利は低下（価格は上昇）基調となりましたが、その後は高いインフレ率を背景に欧米が早いペースでの利上げを継続するとの見方から、金利は上昇傾向となりました。クレジットスプレッドは、欧米は11月以降利上げペースの鈍化期待から縮小に転じたものの、日本は軟調な地合いから社債利回り修正の動きが継続し、拡大基調が続きました。

ポートフォリオについて

日系企業が発行する円建ておよび外貨建ての普通社債、劣後債等を中心に投資しました。外貨建ての債券については為替リスクを縮小させるため、原則として為替ヘッジを行いました。

高いインフレ率を背景に欧米の中央銀行が早いペースで利上げを進め、市場のボラティリティが高い状況が続く中、相対的に値動きの安定した円建て債券を中心とし、外貨建ても一部組入れたポートフォリオとしました。内外の金利がボラティルな値動きとなる中、保有債券は短中期ゾーン中心での運営としました。

○債券種類別比率



※組入比率は当ファンドが組入れている有価証券の評価額に対する割合です。

分配金

当期の収益分配金につきましては運用実績等を勘案し、以下の表の通りとさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

■分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	当期
	2022年6月18日 ～2022年12月19日
当期分配金（税引前）	80円
対基準価額比率	0.79%
当期の収益	48円
当期の収益以外	31円
翌期繰越分配対象額	711円

(注1) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。また、小数点第3位を四捨五入しています。

(注3) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

今後の運用方針

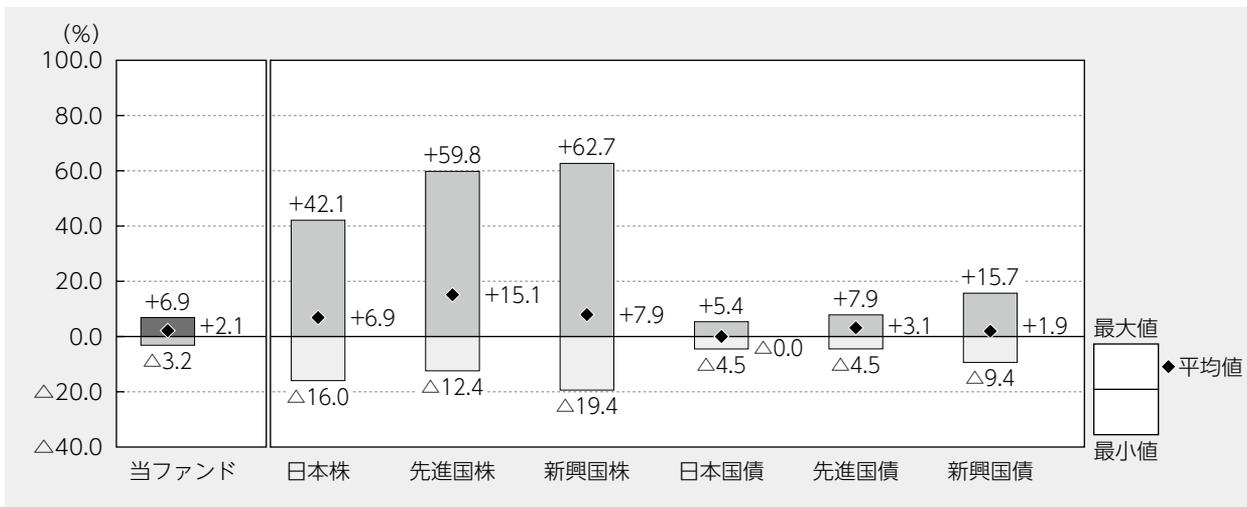
信用力が相対的に安定した銘柄群を中心とするポートフォリオ運営を継続する方針です。銘柄選別を図りながら、割安に購入できる銘柄が出てきた際には入れ替えも随時検討します。

国内外の債券先物も用いて金利上昇リスクをヘッジするオペレーションを実施し、デュレーションは抑制的な水準を基本に機動的に調整する方針です。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券
信託期間	2016年7月1日から2026年6月17日までです。
運用方針	信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。
主要投資対象	<p>日系企業が発行する円建ておよび外貨建ての各種債券を主な投資対象とします。 日系企業が発行する普通社債、ハイブリッド証券（劣後債および優先出資証券等）などに加え、わが国の国債、政府関係機関ならびに地方自治体などが発行する債券も投資対象とします。 ※日系企業には日本企業もしくはその子会社などを含みます。</p>
運用方法	<p>運用にあたっては、金利水準や債券市場の動向、個別企業の経営戦略や信用力評価に基づき投資魅力度の高い銘柄を選定します。 金利上昇による損失を低減するため、金利上昇の可能性が高いと判断した場合には、債券先物を売り建てることで、金利エクスポージャーを減少させます。 外貨建資産については原則として為替ヘッジを行います。 債券の組入比率は、原則として高位を保ちます。</p>
分配方針	<p>決算日（原則として6月17日および12月17日。休業日の場合は翌営業日。）に、経費控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わないことがあります。</p>

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



2017年12月～2022年11月

(注1) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注3) 当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したものと計算しています。

*各資産クラスの指数

日本株…東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国債…FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債…JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※各指数については後掲の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

当ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容 (2022年12月19日現在) (注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

◆組入上位10銘柄 (現物)

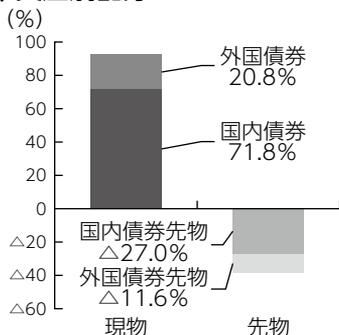
銘柄名	通貨	比率
1回 武田薬品工業期限前償還条項付劣後債	日本・円	4.1%
全共連第2回 劣後ローン流動化社債	日本・円	4.0
3回 東北電力期限前償還条項付劣後社債	日本・円	3.9
1回 日本航空劣後社債	日本・円	3.9
NIPPON LIFE 10/16/24	アメリカ・ドル	3.8
NORINCHUKIN BANK 2.08 09/22/31	アメリカ・ドル	3.1
4 4 3回 利付国庫債券 (2年)	日本・円	3.0
SOMPO JAPAN INSURANCE INC 03/28/23	アメリカ・ドル	3.0
MEIJI YASUDA LIFE 10/20/25	アメリカ・ドル	2.9
DAI-ICHI LIFE 10/28/24	アメリカ・ドル	2.8
組入銘柄数	44銘柄	

(注) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

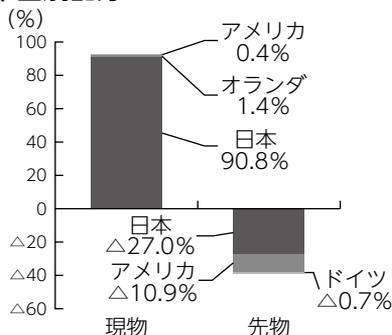
◆組入上位銘柄 (先物)

銘柄名	売買	比率
長期国債標準物	売建	27.0%
US 10YR NOTE FUT	売建	4.8
US 2YR NOTE CBT	売建	2.3
US 5YR NOTE CBT	売建	2.1
US 10YR ULTRA FUT	売建	1.3
EURO-BOBL FUTURE	売建	0.7
US ULTRA BOND	売建	0.4
組入銘柄数	7銘柄	

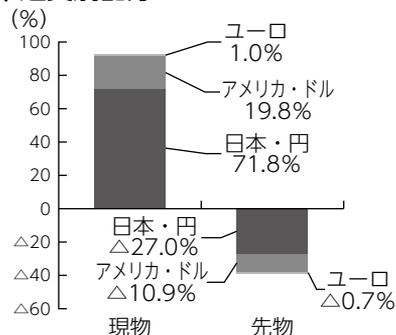
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行っています。

(注2) 国別配分は、発行国(地域)を表示しています。

(注3) 先物(売建)はマイナスで表示しています。

純資産等

項目	当期末
	2022年12月19日
純資産総額	4,919,939,562円
受益権総口数	4,889,809,602口
1万口当たり基準価額	10,062円

(注) 当期中における追加設定元本額は1,112,611,549円、同解約元本額は406,607,961円です。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

- 「東証株価指数（TOPIX）」は、日本の株式市場を広範に網羅し、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークです。同指数の指数値および同指数にかかる標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社（以下「JPX」という。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび同指数にかかる標章または商標に関するすべての権利はJPXが有しています。
- 「MSCIコクサイ・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の主要先進国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「MSCIエマージング・マーケット・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、新興国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「NOMURA-BPI国債」は、野村證券株式会社が国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表すために開発した投資収益指数です。同指数の知的財産権その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- 「FTSE世界国債インデックス（除く日本）」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
- 「JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド」は、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが公表している新興国の現地通貨建ての国債で構成されている時価総額加重平均指数です。同指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。また、同社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

